

日本武尊伝説

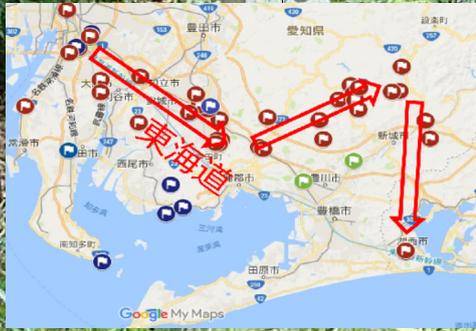
www.yamatotakeru.jp

日本武尊の東征III

記紀で省略された三河の出兵事

『古事記』も『日本書紀』も倭姫命との再会の後は駿河(記は相模)に至ったと書かれています。そのため倭姫のみは伊勢国から駿河まで船で向かい、特別な出来事はなかったかのように思われてしまいます。しかし、愛知県から静岡県西部に至る各地区には日本武尊が滞在したまたは通過した、あるいは戦ったとされる伝承があります。その数も大変多いため無視できません。そこで、西

三河から穂の国、
浜名湖畔に至る
地域の伝承を探る



京ヶ峯三村神社奥宮

三河での戦い

名古屋市緑区大高付近から現在の国道一号、東海道を通り東に向かった日本武尊は矢作川に近づいたとき、川を越えた東に住む賊の征伐を依頼されました。



甲山 愛知県岡崎市六供町

『岡崎市史』には、三河には、三河に入った日本武尊に土地の者たちが海のように広い川(矢作川)の東に高石山があり、ここに人々を悩ませる賊

がいるので征伐してほしいと頼み、そのために矢を作ったと書かれています。このことから、現在の岡崎市では、高石山に陣取った賊対矢作川右岸の日本武尊軍との戦いが起きたことがわかりました。高石山は現在の甲山のことと思われる。



矢作神社 愛知県岡崎市矢作町

矢作神社 (愛知県岡崎市矢作町)は主祭神が素戔嗚尊で、景行天皇の時代に創建された古社です。高石山の賊と戦うための矢にす

る竹は川の中州に生えていてなかなか取りに行くことができません。そのとき蝶が飛んできて人の姿になり中州の竹を取ってきてくれました。矢作りをする矢作部たちはこの竹で一万本の矢を作ったと言われています。そして、日本武尊軍はこの矢のおかげで戦いに勝つことができました。

境内の石板には、一〇八三年、源義家が陸奥守として奥州征伐に向かう時、日本武尊の故事にならって矢作神社に参拝したと書かれています。



矢竹藪

岡崎市森越町の長瀬八幡宮にも同様の言い伝えがあります。駿河から来た賊が

戦いをしかけてきました。そこで村人に命じて矢を作らせました。このことから地名を矢作と言われるようになりました。この矢に使った竹はこの神社境内にあり矢竹藪として伝えられています。



白鳥神社 愛知県岡崎市大和町

日本武尊他を祭神とし、東征の駐軍地と伝えられています。

白鳥神社 愛知県岡崎市大西
日本武尊の駐泊の旧跡」と伝わっています。



三村神社奥宮 愛知県幸田町

三村神社奥宮
(愛知県額田郡幸田町)
標高約百七十メートルの京ヶ峯の頂

た日本武尊はさらに東進しました。三河山間部には鉄の産地があり、矢竹も収穫しているため東征で使う武器を調達することを考えました。そのため、少し回り道ともなりますが、

東海道を離れ三河山間部の作手地区に向かっています。

さらに東進

作らせたところ、風に吹かれて一本の矢がとび、菅生川(現在の乙川)に流されました。この矢を御霊代として戦いの後に伊勢大神を祀ったときされる岡崎市最古の神社です。



菅生神社 愛知県岡崎市康生町

菅生神社(愛知県岡崎市康生町)は吹矢大明神とも呼ばれており天照大神や須佐之男命らを祀っています。日本武尊は高岩という所で賊を討つための矢を

上にあります。日本武尊はここに立つて京の方を見たと言われ、「日本武尊傳説警境之碑」が立っています。日本武尊の妃(詳細不明)が皇子を出産しこの地に留まったという伝承もあります。妃とは山代之玖玖麻毛理比売(かみまほりひめ)ともいわれます。皇子が不明です。この辺りには皇子田、皇子ヶ入などの地名が残っています。

愛知県岡崎市本宿町の法蔵寺は徳川家幼いころここで手習いをしていたところでした。その境内に日本武尊社があり、寺の門近くに賀勝水と呼ばれる湧水があります。この水で戦いで傷ついた兵を治したと伝えられています。現在は水が溜まっているようですが湧き出ているようには見えません。



法蔵寺 愛知県岡崎市

当時の武器は剣や弓矢でした。中でも特に矢は重要な武器です。竹の

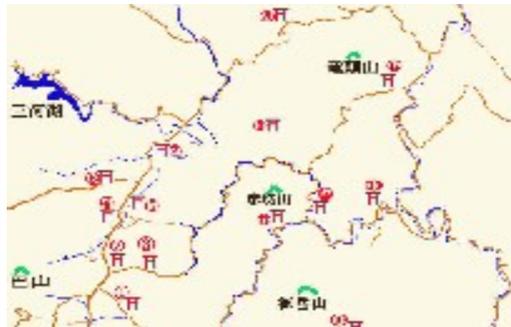
作手の白鳥神社



白鳥神社 新城市作手亀田

先に矢じりを結び付けて作りませんが、良質な竹と鉄が必要でした。幸い竹は矢作川沿いに多く自生しており手に入れるこ

でも特に矢は重要な武器です。竹の



とができました。矢じりは砂鉄を溶かして作ります。三河山間部の作手地区(愛知県新城市)には製鉄の伝承があります。日本武尊は東海道から離れ、

北上して作手に向かいました。もともと良質な砂鉄が採れ、後の戦国時代にも鉄の生産が行われていたようです。この地区に鉾物の神でもある金山神(金山毘古神)と金山毘売神の二神が祀られていることからそれがわかります。作手にある白鳥神社には日本武尊の要請により、矢につける鏃(矢じり)を作ったという伝承があります。



金山神 愛知県新城市

この地区に白鳥神社が数多く建てられています。これは日本武尊への熱い信仰心を表しているといえます。

作手の昔話「ミコサシ」

日本武尊が巴山の峠から作手の里を眺めると田の稲が夏の光で美しく輝いていました。夏の暑さも疲れれていたのでもとの方を下りて休むことにしました。ふもと草谷村(現在の明和地区)まで来たとき、小川に一尺ほどもある鯉が群がって泳いでいるのを見つけた。日本武尊はこれを捕まえて今夜泊まる家への土産にしようと考え、小川に入りました。すると、急に足が痛み始めました。あまりの痛さに小川から出て足を見た尊は大変驚いてしまいました。なんと足の裏が赤くふくれあがっていたのです。従者らも心配し、早く手当をしなければと長者平村の家にかけてこんだところ、家主がふくれあがった足を見て「アカンタに刺されたんだ」と言いました。アカンタはナマズを小さくしたような赤つばい体の魚で、毒針を持っています。小川に入ったときにこの魚に刺されてしまったのです。家主は薬を使って手当するとだんだんよくなりました。これまでアカンタと呼ばれていた魚は皇子を刺した魚ということから、「ミコサシ」とよばれるようになりました。



ミコサシはギギという魚の仲間であろうと言われています。ギギは愛知県の河川などに分布しているナマズ目に属する魚で、ネコギギとよばれる魚は天然記念物となっています。